

賀茂真淵の歌碑建立

俳人有馬朗人氏が揮毫

遠州国学を広めた賀茂真淵の没後250年を記念して、賀茂真淵翁遺徳顕彰会(山下智之会長)は真淵の命日の30日、県郷土唱歌の一つ「賀茂真淵」の歌碑除幕式を浜松市中区の賀茂真淵記念館前で開いた。

遠州地域の個人・団体から浄財を募り、物理学者で俳人の有馬朗人静岡文化芸術大理事長が陶板に揮毫(きこう)した。昭和11(1936)年に製作された「賀茂真淵」の歌詞の1番「ふるき百千(ももち)の 國つ文(ももち)の 正しく深くときあかし」とさせる雲を、ひらきとさせる雲を、7年、遠江国敷智郡浜松庄伊場村で出生。新元号の令和の出典である方葉集などの研究に力を注ぎ、国学者、歌人として活躍した。

中区没後250年で顕彰会

(浜松総局・佐野由香利)



歌碑除幕式で賀茂真淵の功績をたたえた山下会長(左から2人目)や有馬理事長(右から3人目)ら＝浜松市中区の賀茂真淵記念館前